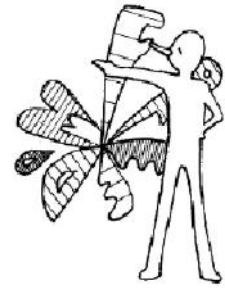


Freedom



こうこうせい じんけんこうほう し だい ごう
高校生の人権広報誌 “Freedom” 第9号

ねん がつ にちほっこう
2012年 3月30日発行

へんしゅう
編集 “Freedom” 編集スタッフ

な ら けんこうとうがっこうじんけんきょういくけんきゅうかい
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

まいつき たし ひ
毎月11日は「人権を確かめあう日」

ひがし にほんだいしんさい たいふう ごう ひさい
東日本大震災、台風12号により被災された
かたがた ところ みま もう あ
方々に、心よりお見舞い申し上げます。



がつ はっかん な ら けんこうこうせい じんけんさくぶんしゅう ねが だい
3月に発刊された奈良県高校生の人権作文集『ひとりひとりの願いを』第51
集では、たくさんの人が被災地支援の活動や震災、原発事故に関する体験を文章
にしてくれました。人権についての思いが詰まった作文集を、ぜひお読みくださ
い!!

ボランティア活動でつながろう!

かくがっこう なに かつどう と く ひと
各学校で、何かのボランティア活動に取り組んでいる人たちが
たくさんいます。みんなそれぞれ、活動へのこだわりや、苦労、
かんとく かくこう わ
感動があります。各校の活動の輪をつないでいきましょう!

ボランティア活動で 地域交流を！

やまとちゅうおうこうこう せいと かい
大和 中央高校 生徒会

やまとちゅうおうこうこう かいこう ねんめ ていじせい つうしんせい たんい
大和 中央高校は、開校して4年目の定時制と通信制からなる単位制高校で定時
制は、午前・午後・夜間の3つの部からなる奈良県初のⅢ部制高校です。

わ こう とくちょう じゆう かもく せんたく じぶん しょうらい ひつよう べんきょう まな
我が校の特徴は、自由に科目が選択でき、自分の将来に必要な勉強が学べ
ることと、チャイムがなく、一人一人が責任を持
って行動することで自主性を高めていること
です。



せいと かいかつどう まいとしきんでつつつ い えきまえしょうてんがい
生徒会活動では、毎年近鉄筒井駅前 商店街で
かいさい じぞうそんまつり
開催される「筒井地蔵尊祭」のボランティアに
さんか
参加しています。そこでは、模擬店運営・司会進行
じゅんぴ かたづ
と準備や片付けをしています。

かいじょうせつえい じ こおりやまみなみちゅうがっこう やきゅう しょう きょうりよく
会場設営時、郡山南 中学校から野球で使用するネットをみんなで協力
し商店街に運びます。個々の店に分かれてからは、当てものの景品のキティやミ
ッキーのビニール製ぬいぐるみやハンマーを膨らませたり、光り物のブレスレッ
ト・カチューシャ・指輪は実際に自分たちで身につけたりし机に並べて商品が
うりやすく、また、出しやすいようにします。お客さんの目に留まりやすいセ
ッティングを積極的に考えたりもします。

まつ はじ まつり も あ ひと
祭りが始まってからは、司会の係が吹奏楽部など祭を盛り上げてくれる人の
しょうかい かんそう たいかい まつり
紹介や感想、ビンゴ大会ではアドリブをまじえて祭を盛り上げています。

く こ はなし なか なかよ あ こえ
模擬店に来る子どもたちと話をしながら仲良くなり、毎年会うたびに声をか
けてくれます。一緒に来たお母さんやおばあさんなど地域の人々とも話をたくさ
ん出来、地域交流も行えます。



わたし
私たちはどこのボランティアに行っても「自
分たちが楽しく、来た時よりもきれいに片付け」
を心がけています。祭だけではなく郡山市内
の障害者を学校に招いての交流や老人福祉施設
ほうもん とくべつ しえん ようちえん とうさまさま かたち
訪問、特別支援学校や幼稚園訪問等様々な形で

のボランティアを行っています。学校の勉強だけでは手に入れられない、体験を通じての感動をたくさんの方々からいただきました。この様に自分たちが楽しく続けてきたボランティア活動で奈良県教育委員会から「生徒会活動に関する表彰」の優秀賞をいただきました。

毎年、ボランティアの依頼をしてくれる商店街のみなさんや他のボランティアの依頼をしてくれるみなさんに感謝して、これからも地域に密着した活動を中心にもっとボランティア活動に力を入れていきたいと思えます。

ペットボトルのキャップでワクチンを！

奈良情報商業高校 生徒会・人権クラブ

昨年、奈良県高等学校生徒会連絡会から、各校へ「ペットボトルのキャップ回収運動」の呼びかけがありました。この運動のきっかけは、ペットボトルのキャップを専門業者に納入すると、1キロ(約400個)を10円で買い取ってもらい、その代金



に相当するポリオワクチンが発展途上国の子どもたちに届けられる制度があったからだそうです。この回収運動には、資源の再利用や二酸化炭素の削減などにも大きな成果もありますが、何よりもみんなで協力・行動することの大切さも持ち合わせていると思えます。

私たち人権クラブは、これまで「アルミ缶・プルタブ回収運動」を行い、車いす1台を寄贈しました。そして昨年の10月からは、発展途上国の多くの子どもたちに、1本でも多くのワクチンが届けられればという願いから、生徒会と一緒に「ペットボトルのキャップ回収運動」もはじめました。

活動の内容は、呼びかけのためのポスターと回収容器を準備し、各教室、職員室、食堂、生徒昇降口などに設置しました。最初の頃は、暑い季節が終わったこともあってか数が少なかったり、キャップのシールを剥がさずにそのまま入れてあったりして、回収はうまく行きませんでした。しかし、地道な取り組みで、今は回収も順調に進み、なかには家から持ってきてくれる生徒も見られ

るようになりました。

現在、世界には1本のワクチンさえ注射できず、1年間で約4千万人の子どもたちの命が奪われています。また、私たちは「東日本大震災」や「台風12号」で、想像を絶する災害を目の当たりにしました。私たちは、この現実をどのように受け止め、何ができるのかについて考えるとともに、どのような行動を行えば良いのかを改めて考える必要があると思います。その1つとして、息の長いボランティア活動、募金活動、ペットボトルの回収運動などがあると思います。これからも、少しでも人のお役に立てるような活動を続けていきたいと思っています。



『身近な人権侵害…デートDV』について学ぼう

デートDVとは、交際中の異性間での「身体的・精神的・性的・経済的な暴力や束縛」のことです。デートDV防止の出前授業などに取り組んだ様子を、高田商業高校から紹介してもらいました。

大和高田市立高田商業高等学校では、差別をなくす強調月間の取り組みとして、2011年7月13日にNPO『参画ネットなら』による「デートDV防止・DV予防教育」の出前授業を全校生徒が受けました。その時の反響は大変大きく、人権作文も「デートDV」をテーマに選んで書いてくれた人が3分の2を占めるクラスもあったそうです。特に3年生のあるクラスではテーマ性のある劇を文化祭にしようということで、男女交際の中で「デートDV」に陥っている男女の高校生の劇をしてくれました。デートDVをしていた男の子が女の子に謝罪してハッピーエンドになる劇では、その後もずっと暴力が続くということを感じた客席の女生徒から、しきりに怖い怖いという声が漏れていました。デートDVの解決が難しいということをかなり考えてくれているようでした。

多くの方が、人権作文などでデートDVについて意見を書いてくれましたが、その中でも出前授業を受けた感想を書いてくれた人権作文の一部を載せます。

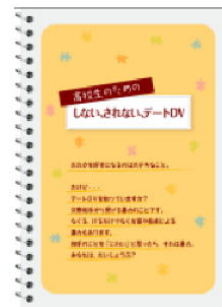
3年生になって、ホームルームの時間などにデートDVについて学びました。素直な気持ちで言うと、自分には関係ないと思っていました。でも、ビデオを見たり、実際に学校まで来ていただいて、出前授業で話を聞くと、考え方が変わりました。

一番思ったことは、誰でも巻き込まれる可能性があって、自分を責めてしまうことが怖いということでした。今、私には恋人はいません。けれど、たとえ自分が相手のことを好きでも、無理矢理、嫌なことをやらされそうになったり、束縛されたりすることがあるんだと思うと、少し悲しいです。そして、逆に自分が相手を束縛してしまうことがないようにしたいと思います。せっかく楽しく過ごしたいのに、台無しになるようなことはしたくないです。また、ひどくなると、暴力を受けたり、避妊に協力してくれなくなったりするのを聞いて胸が痛くなりました。もっと、おたがいのことを、考えた上で行動しないといけないと思いました。また、もし、そのようなことがあったとしても、自分を責めず、誰かに相談してほしいと思いました。(T)

私は「デートDV」の出前授業を受けて、知らないことがいっぱいあったことを教えられたり、自分のためになることを、たくさん教えてもらいました。

DVはよく聞きますが、デートという言葉がついたものは初めて聞きました。しかし、近年、デートDVも増えているということです。好きだから、DVだということも気づかない人もたくさんいることを知りました。デートDVが増える一番の原因は、許されることだと思っているからではないのかなあと 생각합니다。好きだから謝ればきっと許してくれるだろうとか、少しくらいと思っているからだと思います。大切だから暴力を振るって言い聞かせるとかは、間違っていると思います。……周りの人たちがそれはDVだと気づき教えてあげることも、DVを防ぐことになると 생각합니다。そのためには、デートDVがどのようなものか、皆が知る必要があります。私は、周りの人がDVで困っていたら、それがDVなんだと気づけるようにサポートしたり、少しでも役に立ちたいと、出前授業を受けてそう思いました。(H)

◆デートDVについては、奈良県から、昨年度の1・2年生対象に「高校生のための『しない、されない、デートDV』』という冊子が配布されています。



インターネットで読むこともできますので、奈良県HPの、以下のページを参照してください。

(http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-12319.htm)

高解研 研修交流会参加体験記

2012年2月5日(日)に桜井市中央公民館で行われた高解研の研修・交流会に参加しました。参加校数7校、参加者は17名でした。午前中の研修では、奈良県立高田高校の小南昌紀先生から、東日本大震災の被災地で行われたボランティア活動の体験談を伺いました。被災から2か月たった陸前高田市で撮影されたたくさんの写真をみせていただき、改めて自然災害の恐ろしさを感じました。被災直後の状態は多くのメディアを通じてある程度は知っていましたが、2か月がたっても、被災地はまだ大変な状態で心が痛みました。

写真のなかには被災地の高校に関するものがたくさんありました。教室には津波によって流されてきた車があったり、教科書が床に散らばっていました。廊下にはがれきの山、職員室には2011年3月の予定表が無残にもそのまま残っていました。まるでその日から時がとまっているようで、とてもショックを受けました。でも、よく見ると校舎の隅に小さな花が咲いていました。何年後になるかはわからないけれども、いつかきっとこの高校にも笑顔や笑い声が戻ってくる—そう私は信じたいです。

被災地では住民とボランティアの人が協力しあって懸命に復興に取り組んでいるそうです。今まで被災地の方々に「頑張れ!」と言っていたことにうしろめたさを感じるくらい、先生のお話には厳しい現実がありました。私たちはこれから長い間、この現実に向き合っていかなければならないと思いました。被災した高校の生徒たちは仮設の高校に通っており、写真ではその高校の入り口に大きな字で「希望」と書かれていました。被災地の高校生の希望がかなえられる

よう、私たちに今何ができるのか考えるべきだと改めて思いました。

お昼には、東北地方の郷土料理である芋煮づくりにチャレンジしました。初めて作った芋煮でしたが、みんなで作れて楽しかったです。午後の交流会では、「ヒューマンな歌でつながろう！」と題する新企画があり、好きな曲や元気を出したい時に聞く曲などを持ち寄ってみんなで聞きました。

この研修・交流会に参加するなかでたくさんの高校生や先生方と出会い、それぞれの学校で行っている活動や目標を知ることで視野が広がりました。このような機会をあたえてくださった先生方に感謝し、今後はこの交流会で得られた経験をぜひ残りの高校生活に生かしていきたいと思っています。

(帝塚山高校スタッフ S)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。

高校生の人権広報誌 “Freedom” 第9号 (2012年3月30日発行)

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP <http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/>

※ ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※ 本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください)

※ 本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。